



**限られたリソース・厳しい経営の中で大学病院が目指すべき姿**  
**大阪大学医学部附属病院 坂田泰史**

# 今日のお話

- ・限られたリソース、厳しい経営環境
- ・大学病院の目指す姿とは



# 厳しい経営：現場は頑張っていた



(大阪大学病院データ)

- 医業利益額はコロナ前より **+30億円** の増額。
- 診療報酬請求額 (+113億) および医療費収入 (+82億) が大幅に牽引。
- ここ2年間で特に伸びており、現場の皆様の多大な努力が数字として明確に表れています。

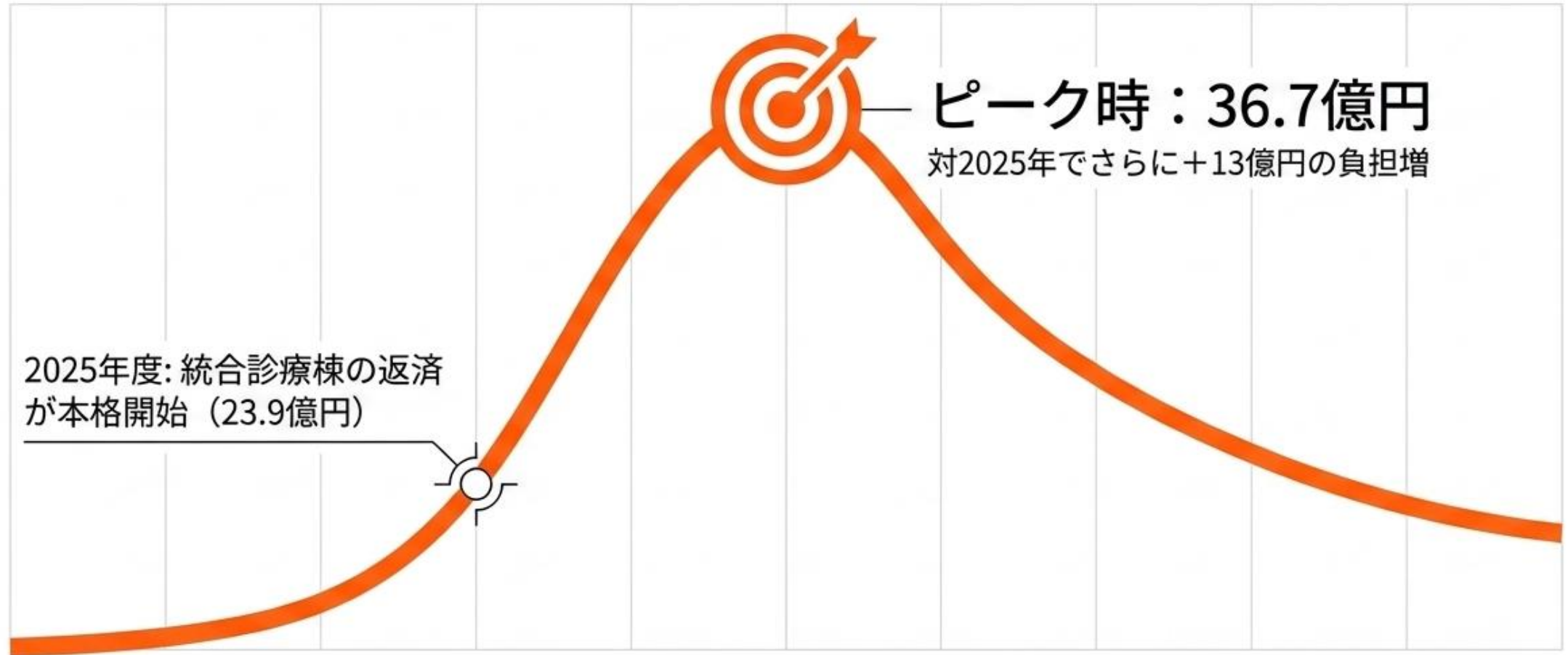
# 厳しい経営：コストが利益を上回っている



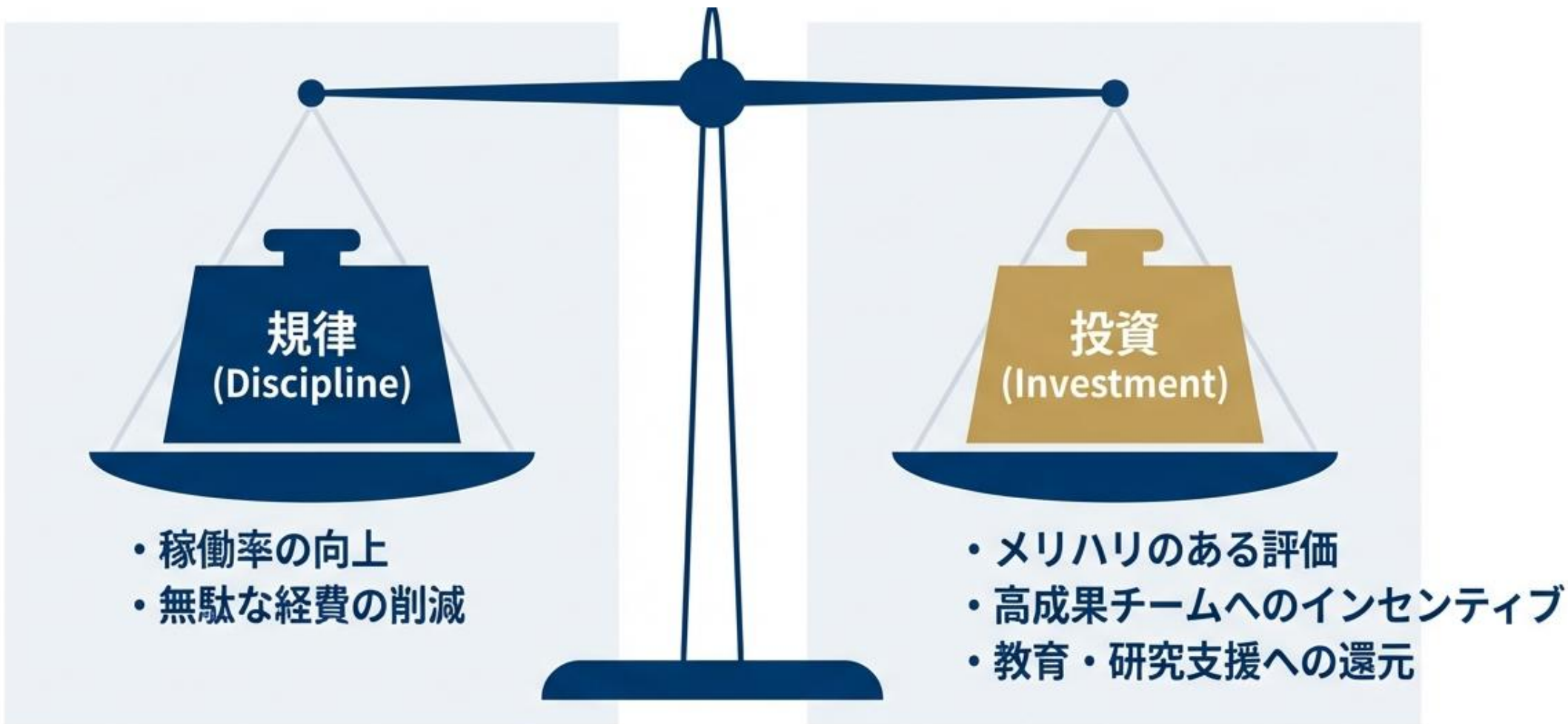
これが今の病院の体力

(大阪大学病院データ)

# 厳しい経営：統合診療棟の返済ピークは2030年



# 持続的な経営のために



# 新たな地域医療構想に関するとりまとめ (2026年3月)

「質の高い医療安全の確保」と  
「厳しい経営を乗り越える持続可能性」の両立

## ① 機能の特化

医育及び広域診療  
機能への限定と  
リソース集中

## ② 双方向の人材連携

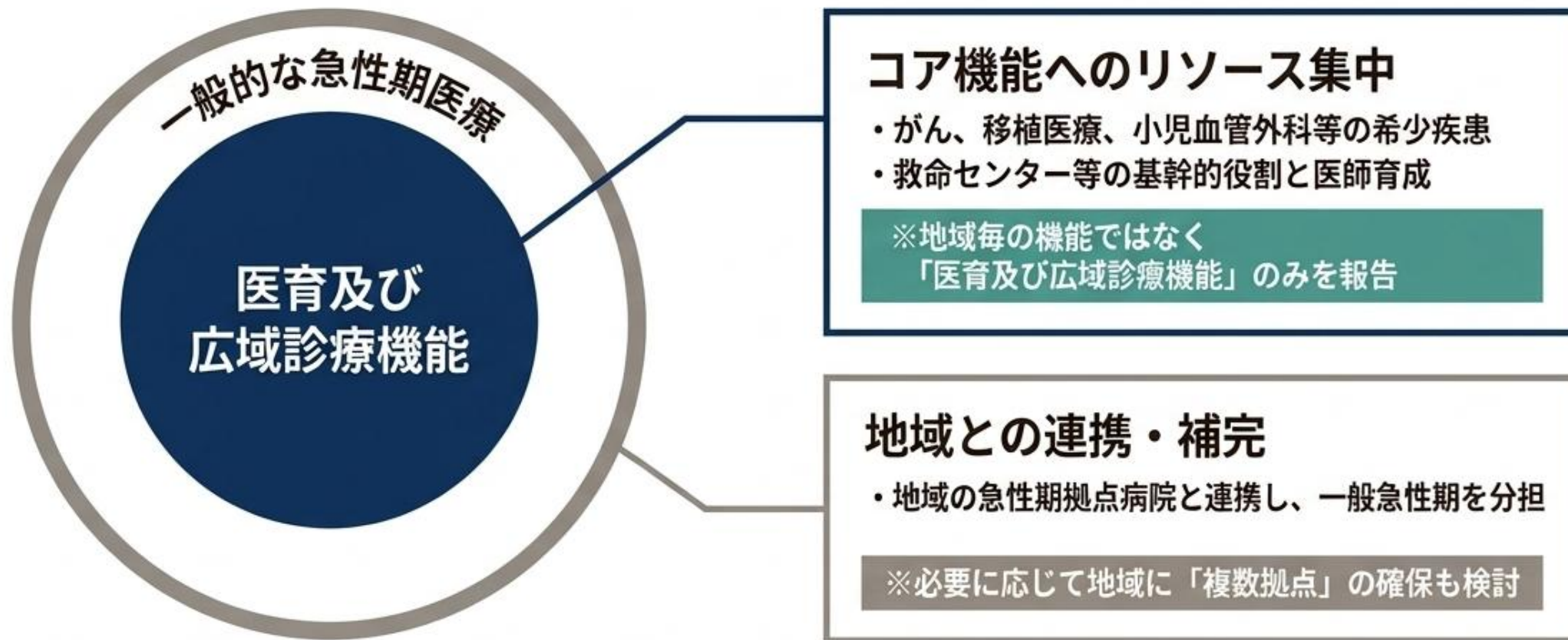
情報共有と協議に  
基づく戦略的な  
配置調整

## ③ 規模の適正化

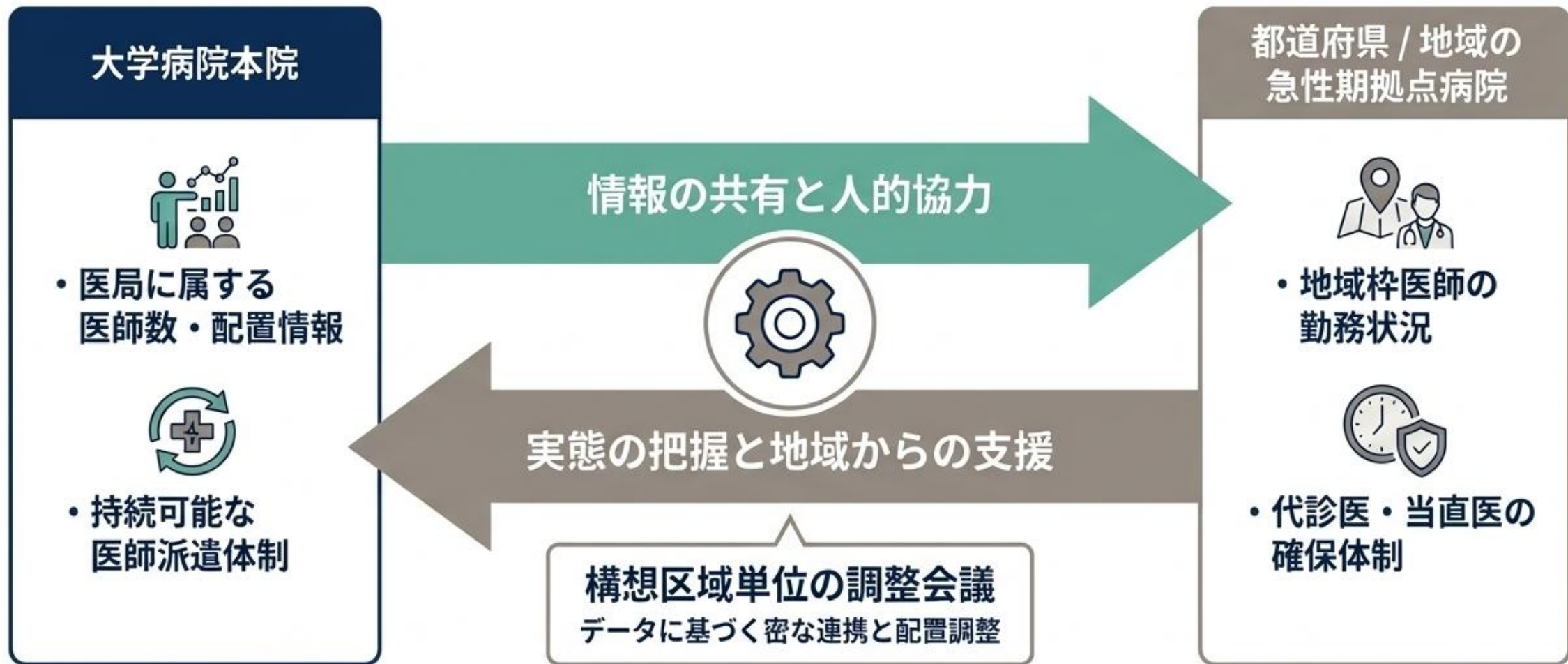
安全を守るための  
ダウンサイズと  
機能見直し

都道府県との密な連携体制（地域医療構想の推進）

# 新たな地域医療構想に関するとりまとめ (2026年3月)



# 新たな地域医療構想に関するとりまとめ (2026年3月)

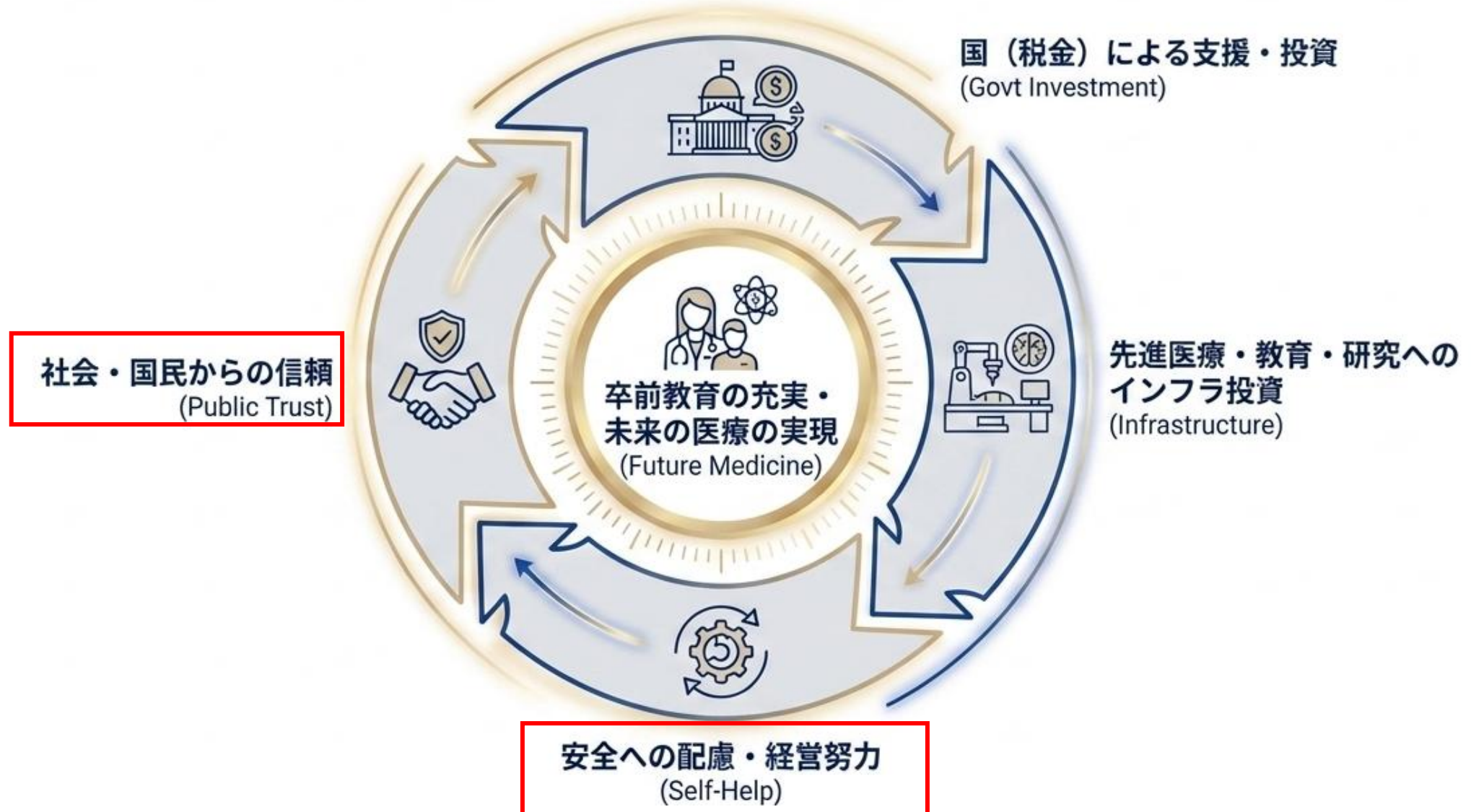




**大学病院のあるべき姿とは、  
重症・難病疾患にとりくみ、人材育成の基盤となること**

# 診療報酬改訂後も、なぜ変わらなければならないか

大学病院に「（相対的に）厚い」診療報酬改訂



# 何が必要か？

## Stability（安定）

教育・研究・臨床を支える礎：  
持続可能な経営

先進医療を支える  
本質的基盤

# Safety：すべての医療と労働の基盤

中央クオリティマネジメント部（QM）を中心とした体制の進化

## Patient Safety （医療安全）



- ・「患者さんにとって安心できる医療」
- ・レジリエント・ヘルスケアの推進

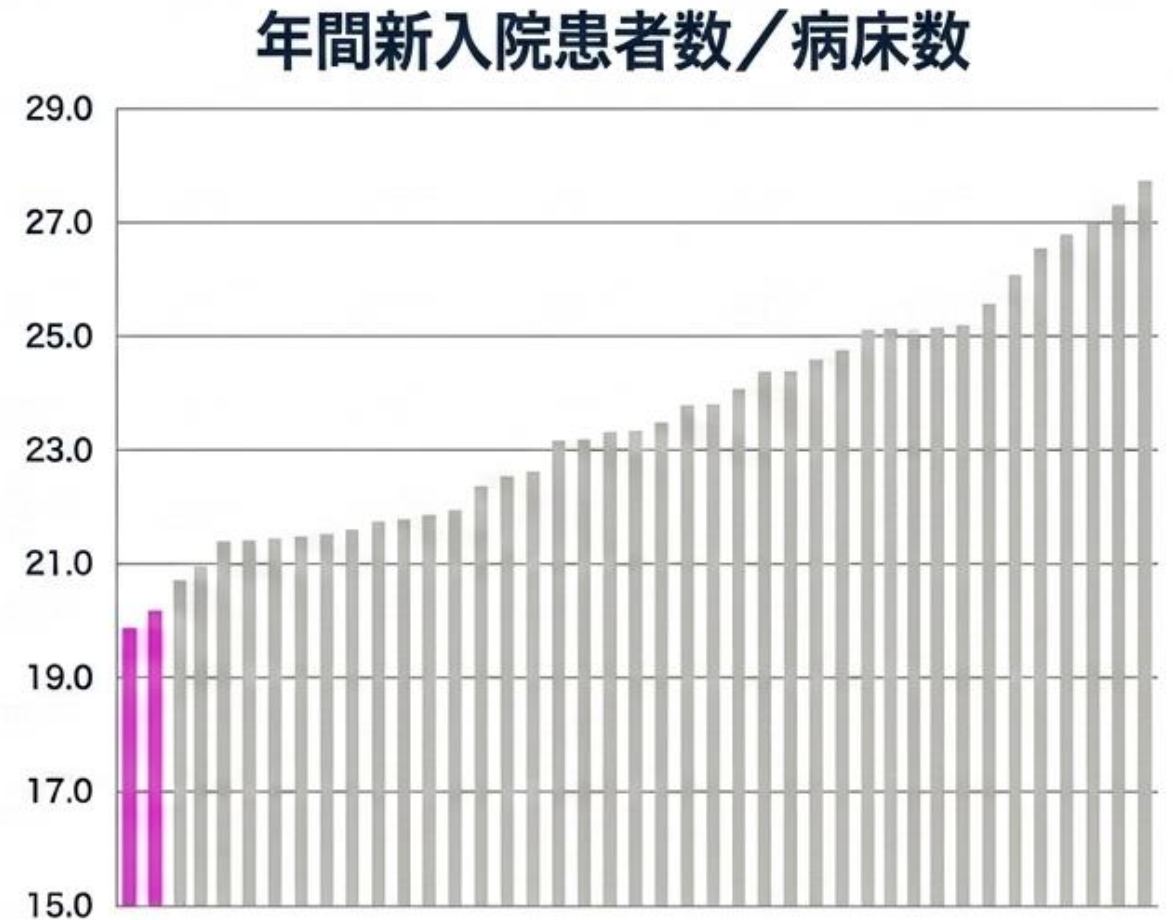
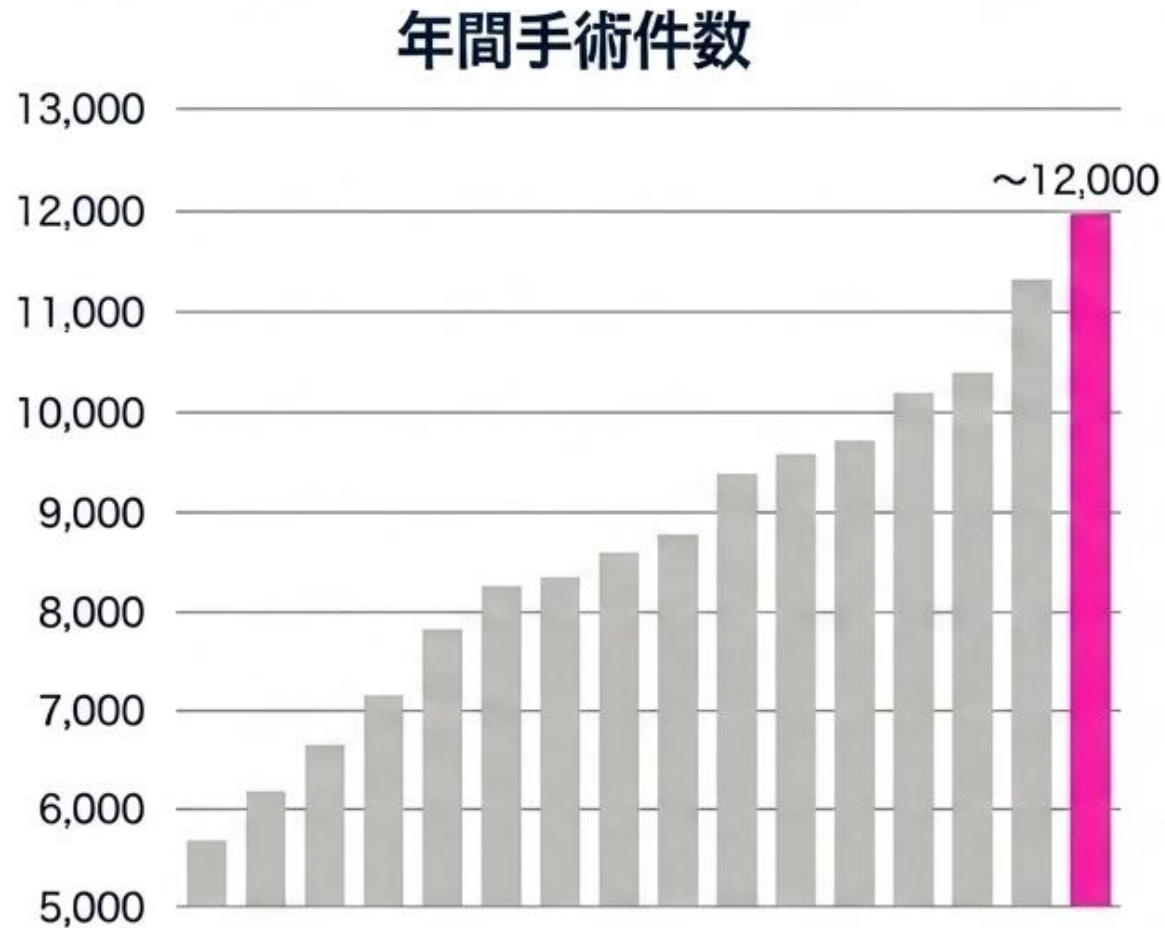
# 何が必要か？



# 解決するのは、Synergy（連携と相乗効果）



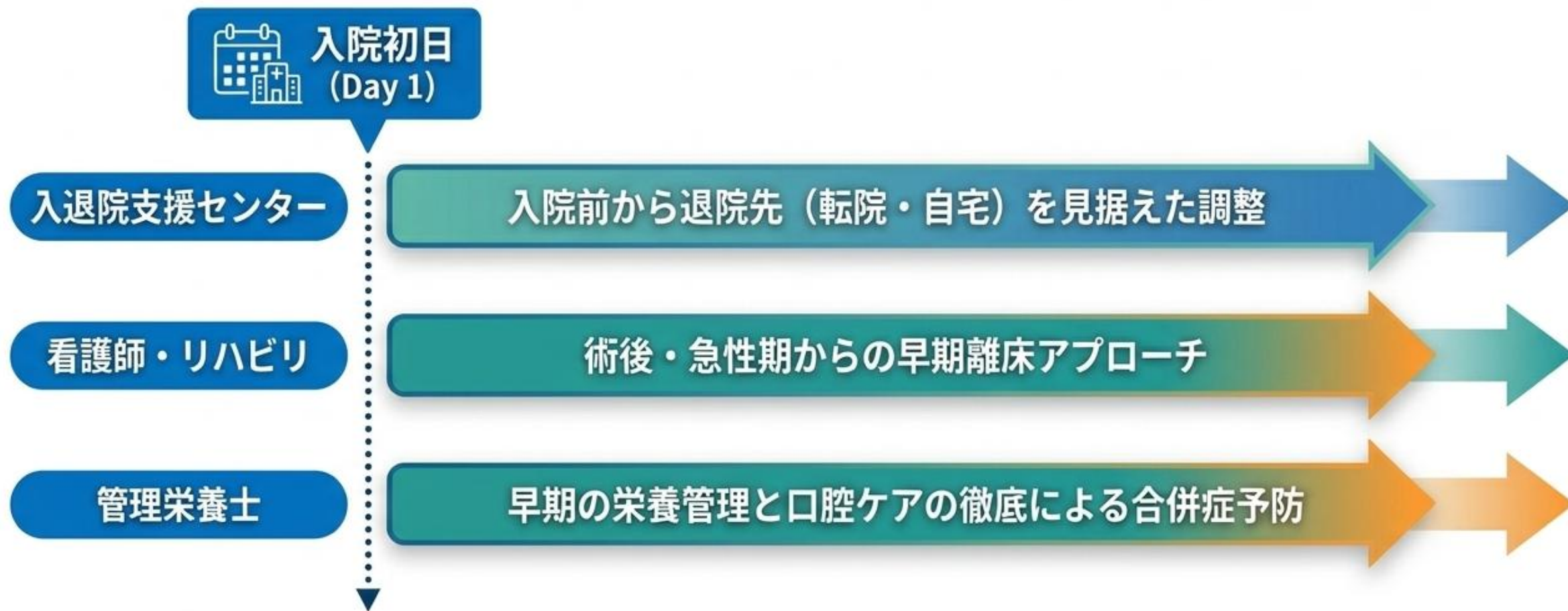
# Synergy : 阪大病院の強みと弱みを知る



大阪大学病院は年間手術件数1位、年間新入院患者数は最下位

年間手術件数を維持しながら、さらに新入院患者数を増やすには

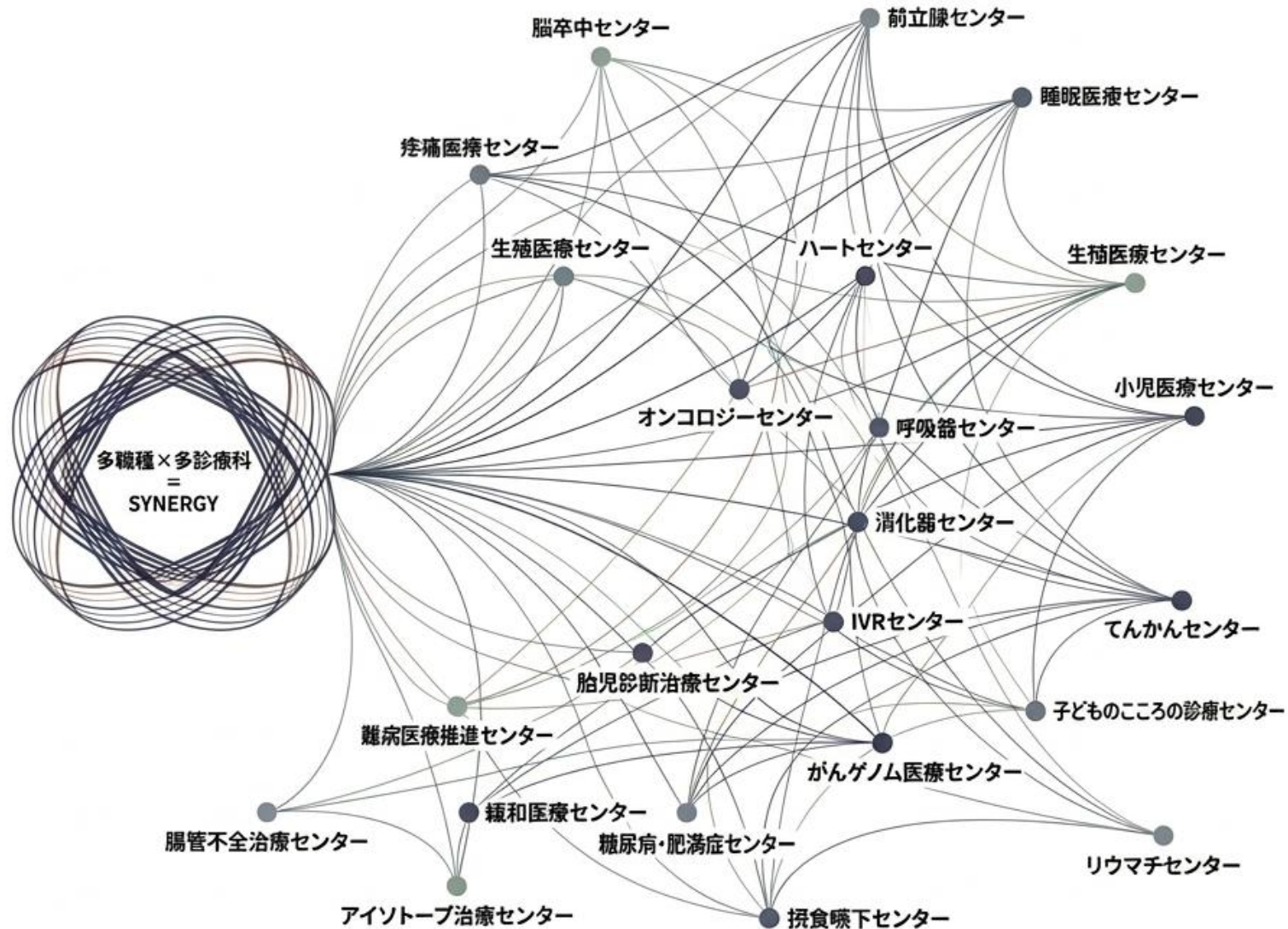
# Synergy : 入院前後から



バラバラに行っているのではなく、同じ目標に向かって意識する

# Synergy : 連携診療部門から

## 連携診療部門のアピールポイント



# Synergyを創出する仕組みにインセンティブを



# 今日のお話

- **限られたリソース、厳しい経営環境**

利益は上がっていても、人件費・医療費などの高騰により経営は厳しい

- **大学病院の目指す姿とは**

地域における最後の砦

人材育成の基盤

Safety, Stability, Synergy

構成員共通の目標を



# 大学病院の進むべき姿



働くことが誇りに思える病院に